

今、世界的な日本食ブームを背景に、全国各地で日本の農林水産物・食品の輸出に向けた取組が活発に行われている。

2013年12月には「和食・日本人の伝統的食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、輸出の促進に追い風が吹くなか、政府も2020年までに、農林水産物・食品等の輸出額を1兆円水準にするという目標を掲げ、輸出を強力に後押ししている。

しかし、相手は海外。国内とは事情は異なる。誰に相談すればよいか、一体どこから手を付けてよいか、わからないことも多いだろう。

そこで本特集では、輸出に取り組む農業者、輸出の専門家、運輸を担う事業者、日本の輸出の現状と、成功に向けた方策について話を伺った。

農林水産省は、この飛躍的に増加する世界の食市場に対して「世界の料理界で日本食材の活用推進 (Made FROM Japan)」「日本の「食文化・食産業」の海外展開 (Made BY Japan)」「日本の農林水産物・食品の輸出 (Made IN Japan)」を一体的に推進し2020年、輸出額1兆円を目指す戦略を策定

世界の食の市場規模 (加工+外食)

現在340兆円の世界の市場規模は、2020年に倍増。
特に、中国・インドを含むアジア全体で考えると、市場規模は、2009年の82兆円に比べ、229兆円へと約3倍増。



チャレンジャー輸出

2020年までに農林水産物・食品の輸出額を1兆円に!